

子育てコラム 42

性教育(命の教育) その 6 「赤ちゃんはどこから入ってどこから出るの?」

「メグさんの女の子・男の子からだ BOOK(以下からだ BOOK)」(メグ・ヒックリング著／筑地書館)は、からだと性について、子どもからの質問に“科学的に正しく”答えるための、親子と一緒に読める物語風な絵本です。大人も一緒に勉強できます。“こんなふうに性を明るく話せたらいいね”の本です。ハードカバーのコンパクトな本で、手軽に読むことができます。

性教育はまず自分の体を知ることから始まります。大事だと知ることで自分を守ることができます。体を知って、心を知ることができます。気持ちを感じることができます。自分の体も心も守れて、相手(人)の体や心を守ることができます。体はその部分を見ながら、名称と大切にすることを教えていきます。

妊娠や出産などはふだん目にすることができますので、絵やイラスト、写真で科学的に伝えていきましょう。子どもが知りたいのは、どのようにしてお母さんのお腹の中に赤ちゃんができるのか(性交)、お母さんのお腹の中のどこにいてどのように大きくなっているのか(妊娠)、どうやって出てくるのか(出産)です。

絵本でもそれらを覆っているものは多くあります。からだ BOOK の性交は文章で分かりやすく説明されていますが、イラストは微妙に包んでいます。出産についても説明は詳しく、ちつ(ワギナ)から出ると書かれていますし、イラストでは出産時の子宮内の胎児の様子がよく分かります。

『あっ! そなへ! 性と生 幼児・小学生そしておとなへ』(浅井春夫、安達倭雅子、北山ひと美、中野久恵、星野恵 編著／エイデル研究所)は、まさしく性と生。多元的に体、命、こころ、死などについて書かれています。自然な営みとして性交がやわらかく描かれています。妊娠中の赤ちゃんの様子も描かれています。何より出産は、かわいいイラストで母親の性器から出ているのが分かります。

子ども達がずっと不思議に思っている、「赤ちゃんはどこから入ってどこから出るの?」。このようなことを言葉だけで伝えることは難しいものです。身近にいて子どもを守っている方が、性交、妊娠、出産を、絵本を使って大事にやさしく伝えることで次第に理解していきます。言葉でも「命はとても大切」と伝えづけたいものです。次号につづく。